

反グローバリズムを掲げる団体による過激な行動

「近年、経済のグローバル化が貧富の差の拡大や環境破壊といった社会問題を発生させているなどとする反グローバリズムの考え方が広まり、サミットやAPEC（アジア太平洋経済協力会議）、WTO（世界貿易機関）の国際会議等において、大規模な抗議集会やデモ等を行う反グローバリズム運動が展開されています。

反グローバリズム運動には、労働組合、農業団体、環境保護団体、人権団体といった様々な性格の団体が参加しているほか、反資本主義としての立場から、過激派や無政府主義者（アナキスト）も、左翼諸勢力の結集、組織の拡大等を目指して、反グローバリズム運動に積極的に取り組んでいます。我が国においても、反グローバリズムを掲げる海外団体の連絡組織が結成されるなど、運動の浸透がみられています。近年、国内の反グローバリズム運動に取り組む団体は、海外での抗議行動に参加したり、国内における抗議行動に海外の団体と協力して取り組んだりするなど、国際的な連携を強めています。

反グローバリズム運動が展開される過程では、次の例のように、大規模暴動事案や警察部隊との衝突事案が発生しています。



年月	開催地	主な抗議行動等
平成13年7月	イタリア ジェノヴァ	最大で約20万人規模のデモが行われ、参加者の一部が商店街の破壊や警官への攻撃を行った。一連の抗議行動で1人死亡、約170人を負傷した。
平成14年6月	カナダ カナタスク	カルガリーで、千数百人規模のデモが数回開催された。エビング・近郊やスイス・ジュネーブ等に約10万人が集結。一連の抗議行動で約500人を負傷した。
平成15年6月	フランス エビン	シーア派徒が約10万人が参加点を置いて抗議行動を実施。14人が射撃、エジプトで最大約20万人規模のデモ、無政府主義者を中心としたモロの約90人が身柄拘束。
平成16年6月	米国 シアトル	シアトルで約10万人が参加点を置いて抗議行動を実施。14人が射撃、エジプトで最大約20万人規模のデモ、無政府主義者を中心としたモロの約90人が身柄拘束。
平成17年7月	英国 グレインツィークル	ロンドンで約30万人の無許可デモで、約20人が身柄拘束。
平成18年7月	日本 サンクトペテルブルク	ロンドンで最大約8万人規模のデモが行われ、参加者の一部が警察部隊への攻撃や店の破壊を行った。一連の抗議行動で約100人を負傷した。
平成19年6月	ドイツ ハイデルバーグ	

※文中、表中の開催地、身柄拘束者数は、報道発表による。

平成11年11月、米国・シアトルにおけるWTO閣僚会議の開催時に、「人間の鎖」により会場が包囲されたため開会式が中止されたほか、約五万人が参加したデモの最中、参加者の一部が暴徒化して、商店の破壊や警察部隊に対する攻撃が繰り返され、緊急事態宣言が出される事態となりました。この暴動の発生により、反グローバリズム運動が注目されるようになりました。反グローバリズム運動に取り組む団体の中には、集会やデモ等で自らの主張をアピールし、政府等に働き掛けることを目的とする団体のほか、会議の妨害を目的として暴力的な破壊活動や道路封鎖等に及ぶ団体もあります。全身に黒装束をまとった「ブラック・ブロック」と呼ばれるグループは、デモ等の抗議行動に際し、多国籍企業の店舗の破壊、警察部隊に対する石や火炎瓶の投げ、車両への放火等の暴力行為を行っています。反グローバリズムを掲げる団体は、「サミットは、経済のグローバル化を推進する先進国の首脳が一堂に会する場である」などとして、サミットを抗議の対象としています。近年は、サミットの開催に合わせて、会場周辺や付近の大都市で数万人規模のデモ等を行い、その過程で、参加者の一部が暴徒化し、地元の商店街の破壊や警察部隊への攻撃といった過激な違法行為を行っています。



△危険サイト

警察庁「北海道洞爺湖サミットの成功に向けて」
<http://www.npa.go.jp/kouhousi/biki6/text/P08-P11.html>

過剰警備を扇動したのは誰か？



北海道洞爺湖サミットの成功に向けて

警察庁
札文 第27号

「驚くほど深い軽蔑の対象」

来年の日本でのG8サミットのことが気になって仕方なくなった。そもそも日本でのサミットをターゲットにしたデモなど行われるのだろうか？俺はそのことが心配になったのである。これまでのどんなG8サミットとも違って、洞爺湖サミットではむしろ完全な無言をもって、世界に日本の異常があわにされるのではないか。なんの抗議行動もない「静かで安全なサミット」が、日本の終わりを明確にするのではないか。政治意識も社会性もない国、世界史の中での終局の姿がそこに現出するのではないかと思うと、俺はぞっとする。福田政権がサミットまで持つかなどというレベルで、今度のG8を語っていてはいけない。洞爺湖サミットにおいて、「日本に市民がいない」「日本に市民的良心がない」という事実に、世界があぜんとする可能性は大きいのであり、そのときこそ我々は驚くほど深い軽蔑の対象になるだろう。そのことが世界の中での日本の発言力を決定的に低下させることになる。（いとうせいこう「readymade」2007年10月12日）<http://ameblo.jp/seikoito/entry-10050833441.html>



いとうせいこうの想像力はグローバルでリアルだ。地球の反対側や海の向こうで起きたことを自分の足もとで起きたことのように感じとれるグローバルな感受性は自分が今ここでやることが同時代の地球に及ぼす反響にも敏感だ。たしかに、今この時代に「なんの抗議行動もない「静かで安全なサミット」などというのが、もし開かれでもしたら、それはもう「史上空前の恥さらし」である。そのとき日本は「驚くほど深い軽蔑の対象になるだろう」というのは全くその通りだと思う。笑いごとではない。そうなつたらもう日本人の話など誰も聞いてくれないだろう。これから海外旅行に行く時は気をつけた方がいい。どこへ行っても冷たくされ、無視されるだろう。だが、まちがっても文句など云ってはいけない。「G8に抗議しなかったような奴らに文句を云う資格はない。石を投げられないだけでも、ありがたく思え！」と怒鳴られるのがオチである。海外に留学する人も覚悟した方がいい。シートルとバークレーではまず友だちはできないだろう。サンフランシスコでもだ。恋愛も友情も愛情も芽生えないだろう。それから当分のあいだはドイツに行くのは控えた方がいい。「ベルリンを歩けばアーナキストに当たる」というくらいのアーナキストの国である。もし当たったら最後、ドイツのアーナキストの非暴力的罵倒をなめてはいけない。「この、こそ、ほけ、かす、あほ、まぬけ、ばか、とんま、ろくでなしのひとでなし、おに、あくま、ひとりい、いぬ、さる、ろば、(ピー)、(ピー)、(ピー)、」とめくるめく罵倒の嵐が待っていることだろう。知識人や学者も同様だ。これからは国際会議や学会で何を云っても無駄である。なにしろ市民的良心がないことが世界中にバレたのだから、そんな国の知識人の云うことには誰も耳を貸さないだろう。だが、そんなことよりもやはり、「もうひとつ可能な世界」をつくろうとしている世界のアクティヴィストたちから軽蔑されるのが一番こたえる。「あのときあなたは何をしてたの？」ときかれても困らないように、今のうちからやれることをちゃんとやっておこうと思った。（イルコモンズ「もうひとつの世界はいつでもとっくに可能だ」）

【問い合わせ】私たちは「驚くほど深い軽蔑の対象」にならずにすんだのだろうか？



NO G8 ACTION JAPAN

「闘争の新たなサイクル」

「洞爺湖G8サミットに反対する運動は、闘争に新たなサイクルを開くきっかけとなる可能性がある。それはグローバリゼーションの時代における三番目の契機だ。もっと大事なのは言うまでもなく、サミット周辺で起きる出来事ではなく、日本と世界中のさまざまな地域からやってくる活動家たちとの出会いにある。こうした出会いが今後数年間にわたる新たな運動や組織への道を開く可能性があるからだ。いくつかの点で今回の新しいサイクルは、第一のサイクルにあつたいくつかの要素を蘇生させなくてはならない。ここで言う第一サイクルとは、一九九〇年代なかばにメキシコや英国、その他の地域で興隆してきた一連の出来事をさすが、特に一九九九年のシアトルにおけるWTO会議の際に主流メディアでも注目されるようになった。ここで重要なこととして確認しておくべきなのは、これらの闘争が中心的な組織を拒絶した多様な集団から成り立っていたことだ。たとえば、シアトルで外からみている人たちを戸惑わせたことの一つに、抗議する人たちの主張があまりにばらばらだったことがある。アーナキストと教会のグループ、劣悪な労働に反対する運動と環境保護運動、労働組合と社会正義を求める人々、これらが一緒に参加していたのだ。さらに戦術の多様性がある。人形を掲げてパレードをする者、街路で踊る者、労働組合の旗を掲げる者、直接行動に訴えて警察と戦う者などなど。外部から見ていると、あるいはかつての活動のスタイルからすれば、これほどめちゃくちゃな運動はないようにみえた。いったいリーダーは誰なんだ？運動を代表してメディアに伝えるスポークスパーソンは？秩序を乱す者たちを誰が統制するのか？しかしながら構造が多様で水平的なネットワークであるこのと、これらの運動の強みだ。その後の二〇〇一年のイタリア、ジェノヴァでのG8サミットまで毎年、活動家たちはさまざまな組織形態や動員方法を試してきた。（中略）こうした運動の第一サイクルは、アメリカ合衆国によるテロに対する戦争とアフガニスタンおよびイラクの占領によって終わりを告げる。それまで数年間焦点としてきた多くのグローバリゼーションに関わる問題を脇において、戦争反対運動に転換したからだ。（中略）そして、この第二サイクルがいまや終わろうとしている。私たちはいまでも戦争に反対する必要があるが、私たちに与えられている可能性は、搾取や貧困、階層による差別、排除や自由の剥奪といった資本主義グローバリゼーションを規定している他の多くの問題のなかに戦争反対をふたび挿入することだ。闘争の第三サイクルにおいて私たちがしなくてはならないのは、第一のサイクルを特徴づけていた民主的組織化における多様性と実験的性格を取り戻すことである。（中略）私たちは運動を真にグローバルなものとする方法をさがしだし、共有できるコミュニケーションと行動をおこなうなかから、自分自身を他者との交歓をとおして変革しなければならない。そして詰まるところ第三サイクルの責務は、平等と自由、民主主義によって彩られたグローバリゼーションの別の形態をつくりだすことにある。洞爺湖G8におけるさまざまな行動がこうした新しい運動サイクルを祝う楽しさ宴となることを！」

（マイケル・ハート「闘争の新たなサイクル」）

【問い合わせ】私たちは「第三のサイクル」に合流できたのだろうか？